

# 協会ニュース

## B型事業所としての菜果2



B型として運営を始めて半年がたちます。

弁当製造販売以外の仕事を担う方々も増えてきました。

工賃が作業内容によって異なることは前回お伝えしましたが、B型になっても事業としての給付金は基本的には事業所全体の平均工賃によって決まりますので、売り上げを上げていくことが必要です。

利用者の方々も我々職員も菜果の利用を通して、自分の働き方と生き方を考えていただくことが必要ですが、事業所全体の売り上げについても一緒に考えていただかねばなりません。

グループホームでも「個人のしたい生活を叶えること」と「他者（地域、ルールなど）との折り合いをつけること」の両立が求められます。

「限られた生活費の中でのお金の使い方」や「タバコを吸うか否か」などジレンマに直面せねばならず、自分のやりたいことだけ、というわけにはいきません。

地域においても目の前の課題に対して「人材不足や物価高で効率化が最優先され、やりたくてもできない」などの状況があちこちで見られます。

そんな中で消極的な妥協ではなく、積極的に折り合いをつけていくことをせねばならないと思っています。

菜果でも、自分たちの満足できる商品の提供と売り上げの追求をできるだけ矛盾のないように進めていかねばならず、労力のかけ方も「こだわり」と「効率化」の折り合いを図らねばなりません。

お客様にも、働く人にも、事業所としても満足度の高いところを目指していくために、自由で新しい発想や価値観を取り入れるように様々な検討を重ねているところです。

大変な状況はしばらく続くでしょうが、生き残りができるように、ピンチをチャンスに変えられるように、試行錯誤を重ねながら取り組んでいきたいと思ひます。



## 職場内事例検討会 R6.12.4 (水)

### 「間違えて他の人の薬を飲ませてしまった件について」

利用者が施設生活を送るにあたり、日々の健康維持や病状安定のためには、服薬は欠かせないものです。リスクマネジメントの中でも、薬の管理や誤薬については重要な事柄です。

改めて誤薬とは…

利用者が誤った種類、量、時間または方法で薬を飲むことを差します。誤薬は、男女年齢や障害の程度、薬の内容（効能・副作用）や量によっては生命に影響が及ぼすこともあり、起こってはならない事故です。しかし、「ついうっかり」「思い込み」などのヒューマンエラーが最もおこりやすい事故でもあります。

今回、身近な問題として GH における誤薬について事例検討会を行い、スタッフ相互の意識や配薬の手順等を再確認しました。

実際に誤薬を経験したスタッフからの発言より

Y ⇒間違いに気づいた時点で、管理者に電話した。

I ⇒直ぐに事務所に来て報告した。 →理由 副作用が出るかもしれない。

C

K } ⇒間違えそうだったが飲むには至らなかった。

H ⇒その場では本人に伝えず、事務所に戻って報告した。 →理由 本人を不安にさせないようにするため。

#### 原因

- ・複数人の薬を持ち歩いていた。
- ・いつもは担当しない人の薬だった。
- ・話しかけられて焦ってしまった。

#### 対応

- ・本人にその場で言う。 or 本人にその場では言わない。

Y ⇒本人が見ていたから言うしかなかった。

H ⇒大騒ぎになるからその場では言わない方がいい。

#### 対策

\*アース

薬袋の名前と本人確認を徹底する。 例：渡す前に、本人と一緒に、飲む前に、計三回薬の内容の把握（服用後観察が必要な薬も・・・）

\*本人の不安への配慮が必要

↳言い方次第では信頼関係を失うことなどを考慮する必要がある。

\*各利用者の飲んでる薬のリスト表や効能、副作用を記載したファイルを作成してはどうか。

※今後、薬についての勉強会をしてはどうか。

毎日のルーティーン業務の中でも、改めて薬についての基礎知識の学習、日々の利用者の生活、障害の程度や精神状態の波、前駆症状等日々のミーティングや会話の中で情報を共有化していくことで、利用者の安心・安全な生活の担保に繋がっていくものであると感じました。

(おことわり：文中、厚労省介護事故防止ガイドラインより一部抜粋・加筆により掲載しています。)



**ジョイ 新年の抱負を語ろう会 1月10日 お茶会にて  
メンバーさんの今年の想いは如何に**

なるがままの 一年にしたい **KT**

雪解けまでは冬眠して、ジョイの  
イベントに参加します **YT**

花粉が多い年になりそうですが、  
一生懸命ジョイに通います **SO**

早寝、早起きをしてジョイに  
来るようにしたい **KT**

ジョイにまじめに通う **YJ**

就労 B とジョイを休まない **SY**



出歩く数を増やして  
ジョイにも来たい **OY**

就労 B のバス通勤では、時間を  
確認して頑張っていく **TM**

穏やかな一年にしたい **HM**

国際交流協会に登録したので  
がんばる **KY**



**ジョイ 節分 恵方巻の会 気持ち早めの1月31日**



## ひとこま 邂逅

ある日、GHの駐車場の雪かたしをしていると、初めてお見かけする初老の紳士から声をかけられました。

「ここには『たけだ苑』というグループホームはありますか？」

「はい。どういうご用件でしょうか？」

「実はHさんという方に会いたいんですが、会えますか？」

「会えるのですが、できれば最初に職員がお話を聞かせていただけますか？」

ということで、お話を聞かせていただくこと…

この方は利用者のHさん(65歳)の高校時代の担任の先生だということでした。卒業してから一度も会ったことはなく、今まで年賀状のやり取りをしてきたそうですが、ここ数年、文字が乱れているのがずっと気になっていたというのです。

自分も75歳になり、今年で「年賀状じまい」にするというメッセージを書いて、ふとこんなことを思った…住所にGHと書いてあったので、そういう仕事をしていると思っていたが、もしかしたら、働いているのではないのかもしれないと…。

住所などを頼りにあちこちに問い合わせをしたがわからなかったので、思い切って遠方からわざわざ訪ねて来てくださったというのです。

私がたまたま声をかけられたのでお話を聞くことができましたが、そうでなければ今晩はどこかに宿泊して明日また探そうと思っていたそうです。

ここまでお聞きして、実はHさんはたまたま体調を壊して入院中でありお会いしていただけないこと、そして、長くGHを利用されており調子の悪い時もあったが最近はずいぶん調子がいいこと、年賀状の字が乱れてきたのはお年のせいもあるだろうこと、などをお伝えしました。

先生が担任をただけのつながりで現在まで年賀状のやり取りをしているのはほんの数人だそうです。その一人であるHさんがお元気であることがわかり安心されたようでした。

Hさんにとって先生はどんな存在だったのでしょうか…先生からは特別なエピソードはお聞きできませんでした。まもなくHさんは退院して戻ってこられますが、このことをお伝えしたらなんというだろう…とドキドキしています。



## 編集後記

今回の寒波が雪害にまで及んでいる地域の方々にはお見舞い申し上げます。会津ではある程度の雪は覚悟しておかねばなりません。雪の少ない年を経験してしまうと、やはり「雪は大変だ…ない方が楽だ…」と後悔してしまいます。よく「若い時の苦労は勝手にでもしろ」などと言いますが、経験したことを身になるように、そして経験していない事にも想像力を及ぼせることができるようにしたいものです…(J)

